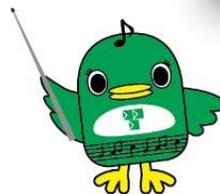


習志野市の 施設再生計画と 既存の施設の 活用について



平成29年 1月25日(水)

津田沼まちづくり会議様と市長とのタウンミーティング

(写真：昭和38年竣工の習志野市役所旧庁舎)

日本全体の状況

1. 社会の発展とともに歩んだ公共施設
2. 公共施設・インフラの老朽化
3. 老朽化が原因で発生した事故
4. 公共施設の更新サイクル
5. 日本の人口推移（100年）
6. 日本の人口推移（1300年）
7. 日本の従属人口指数の推移
8. 国の一般会計における歳出・歳入の状況
9. 増分主義と減分主義

習志野市の取組

10. 公共施設の老朽化に対する習志野市の取組経過
11. 習志野市の公共施設の現状
12. 習志野市の公共施設の更新試算（その1）
13. 習志野市の公共施設の更新試算（その2）
14. 習志野市の人口推計
15. 行政改革の取組（職員数の推移、債務残高の推移）
16. 習志野市の扶助費（社会保障費）の推移

◆習志野市公共施設再生計画（平成26年3月）

17. 基本方針（平成24年5月）
18. 目的
19. 計画期間
20. 対策「3本柱」
21. 内容（全市利用施設）
22. 内容（地域利用施設）
23. 内容（個別の施設の例）
24. 公共施設再生のイメージ



1962 (昭和37)

1963 (昭和38)
習志野市庁舎



1964 (昭和39)

1966 (昭和41)
市民会館



1972 (昭和47)

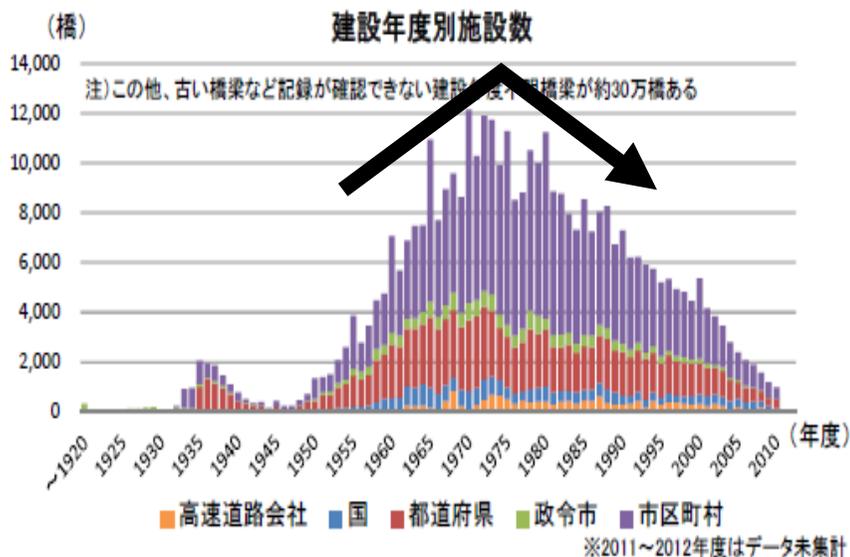
1974 (昭和49)
習志野高校



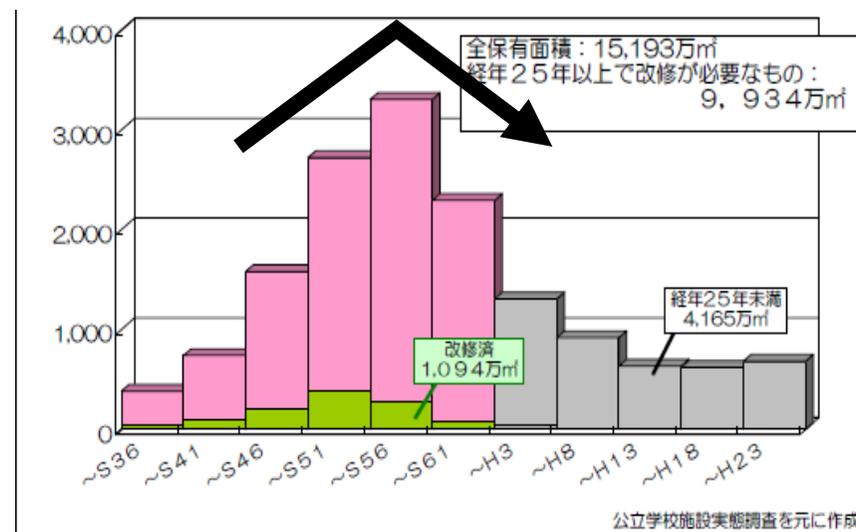
時がたてば老朽化が進む。建替えが必要。

すべての公共施設・インフラが老朽化しています

橋の建設実績



学校施設の建設実績



日本のインフラは1970年代前後に集中して建設され、老朽化が進んでいる。いずれは建て替え（更新）が必要でそのピークは2020年代以降。

3. 老朽化が原因で発生した事故

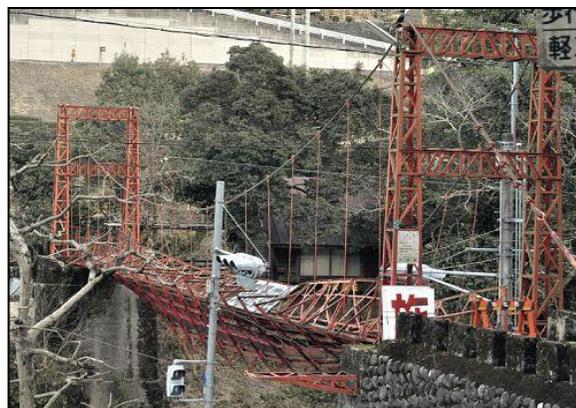
2011.3.11
東京九段会館
天井崩落



2012.12.2
中央自動車道
笹子トンネル
天井板崩落



2013.2.10
浜松市の
第一弁天橋
ワイヤー破断
事故発生

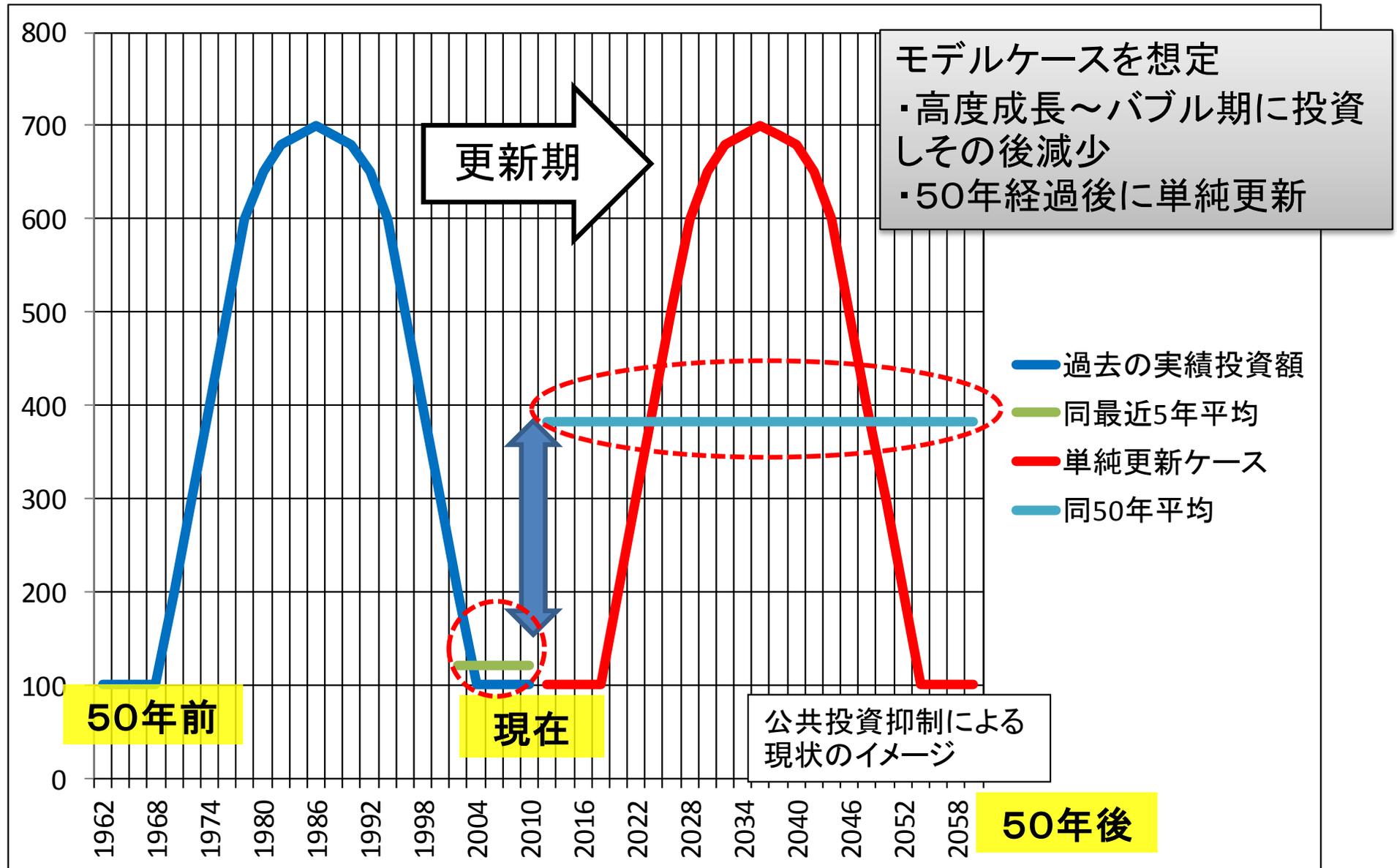


2013.8.8
東京都北区の区道陥没



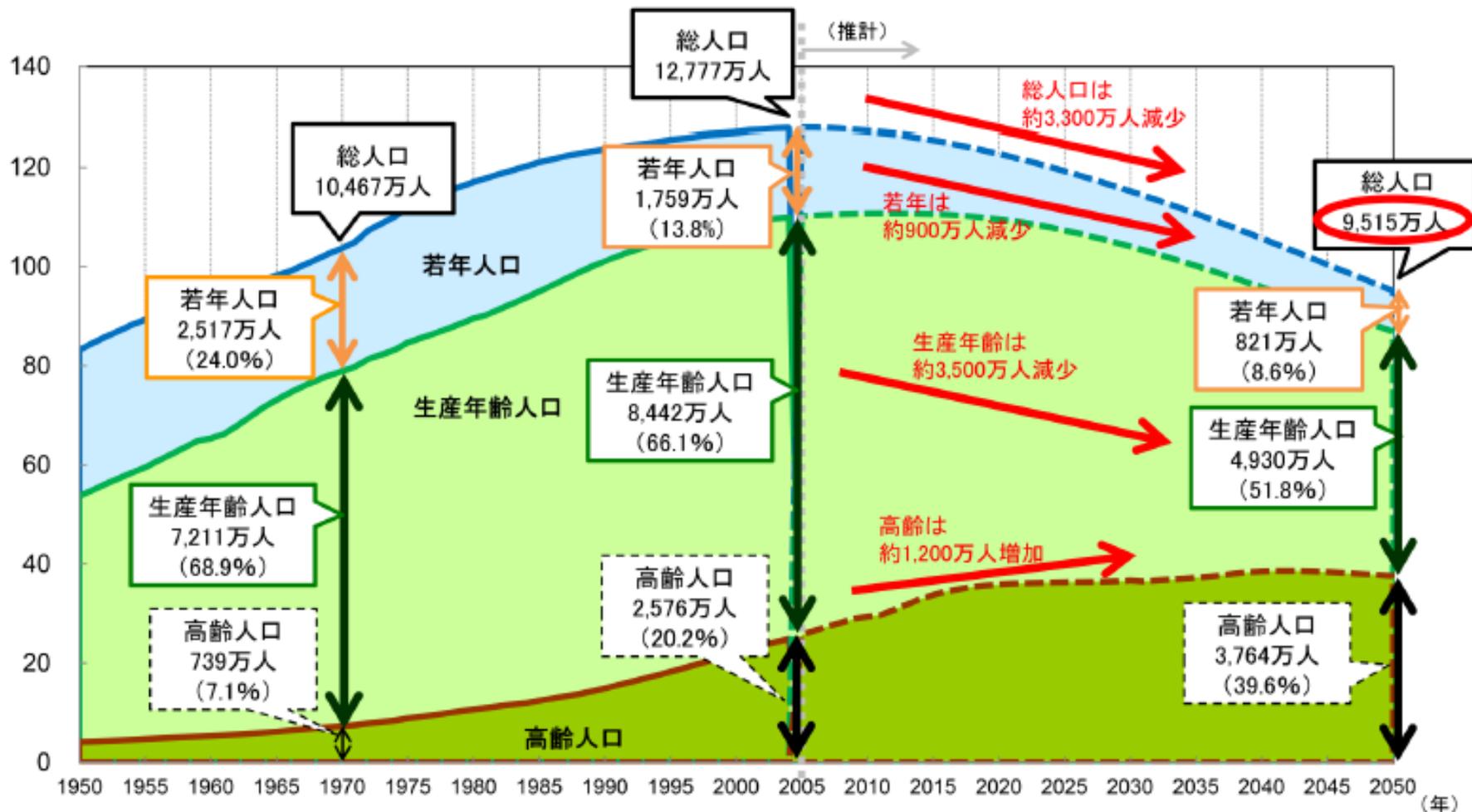
2013.10.15
東京都港区の
区道崩落

4. 公共施設の更新サイクル



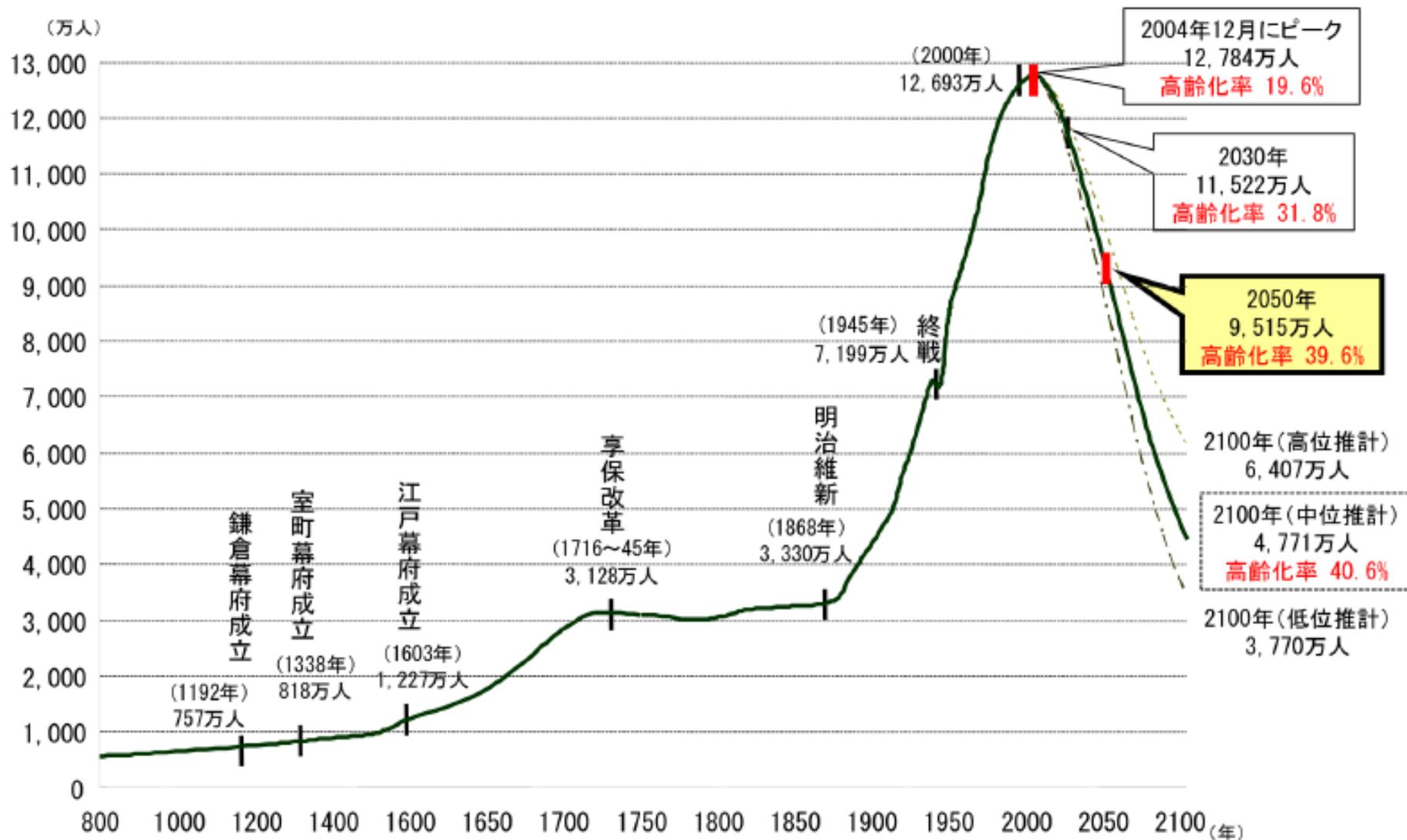
5. 日本の人口推移 (100年)

- 我が国の総人口は、2050年には9,515万人となり、約3,300万人(約25.5%)減少。
- 高齢人口が約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口は約3,500万人、若年人口は約900万人減少。その結果、高齢化率は約20%から約40%に上昇。

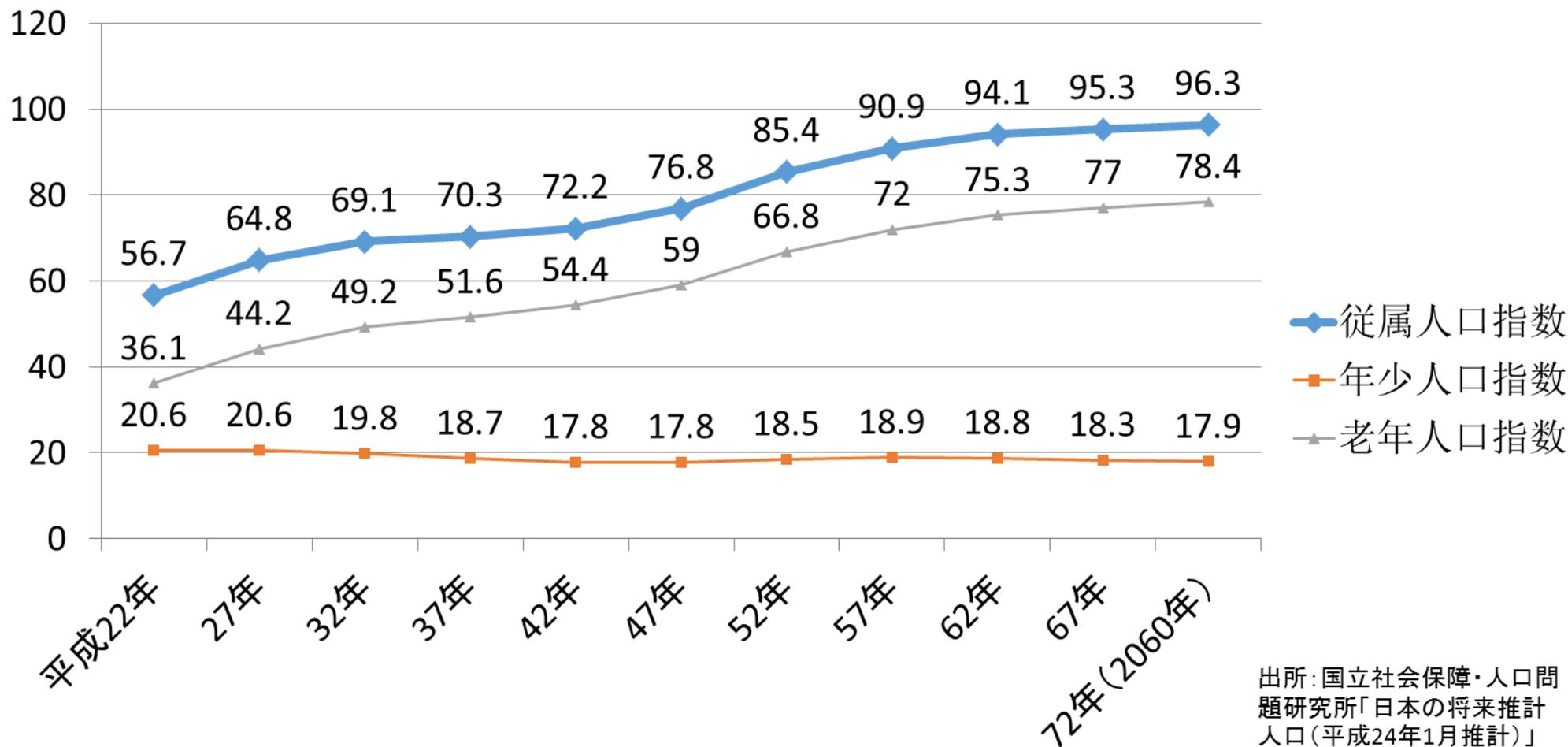


6. 日本の人口推移 (1300年)

○ 我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



7. 日本の従属人口指数の推移

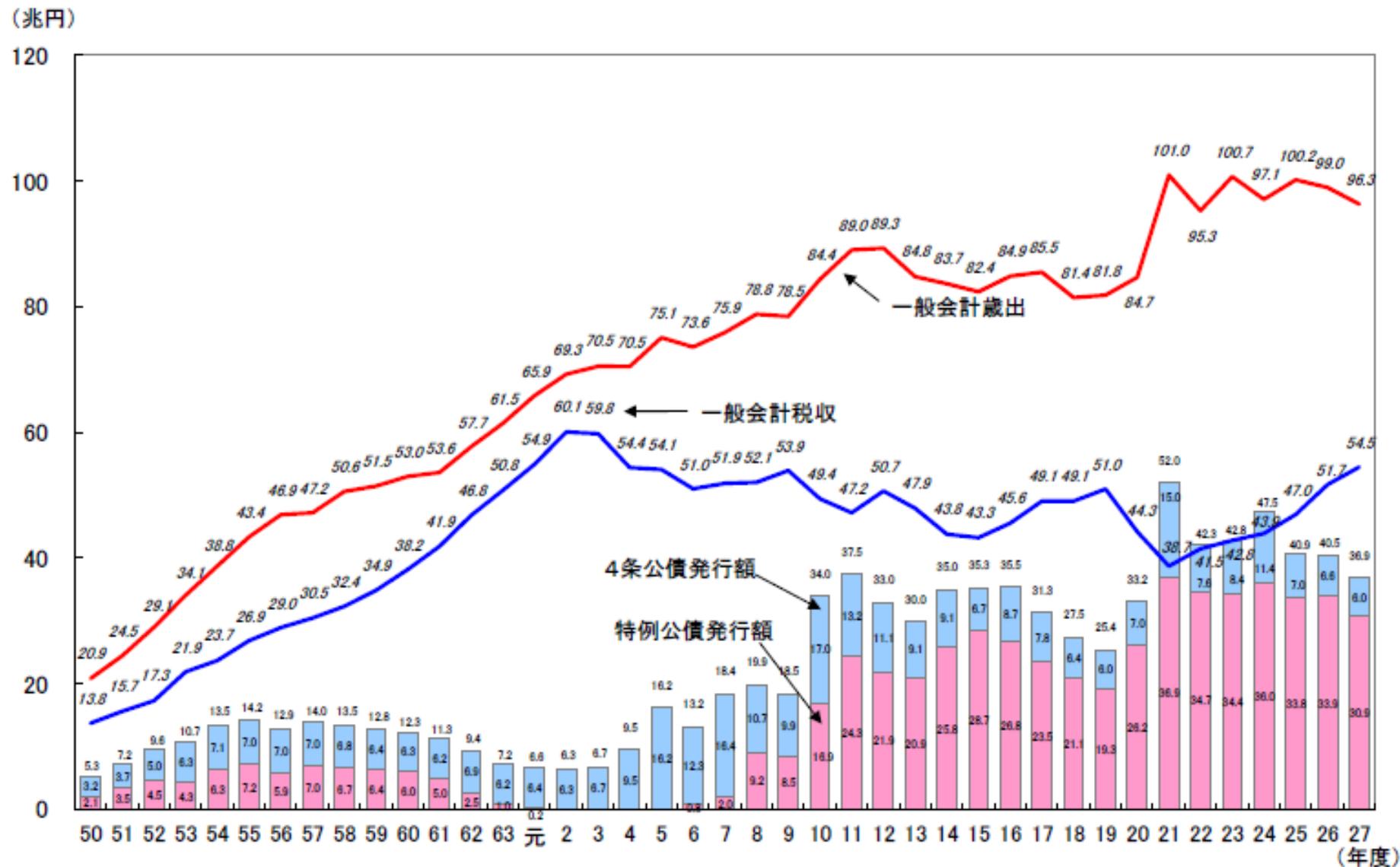


従属人口：年少人口（0～14歳人口）と老年人口（65歳以上人口）を合計した人口

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{従属人口}}{\text{生産年齢人口（15～64歳人口）}}$$

働き手である生産年齢人口100人が年少者と高齢者を何人支えているかを示す。

一般会計における歳出・歳入の状況



増分主義

- ・増分の配分を議論
- ・過去の配分は無関係
- ・ストックは無認識
- ・行動原理は増分
- ・増分への意思決定

新規増加分の配分が議論の対象

減分主義

人口・経済右肩下がり

何を削減するかが議論の対象

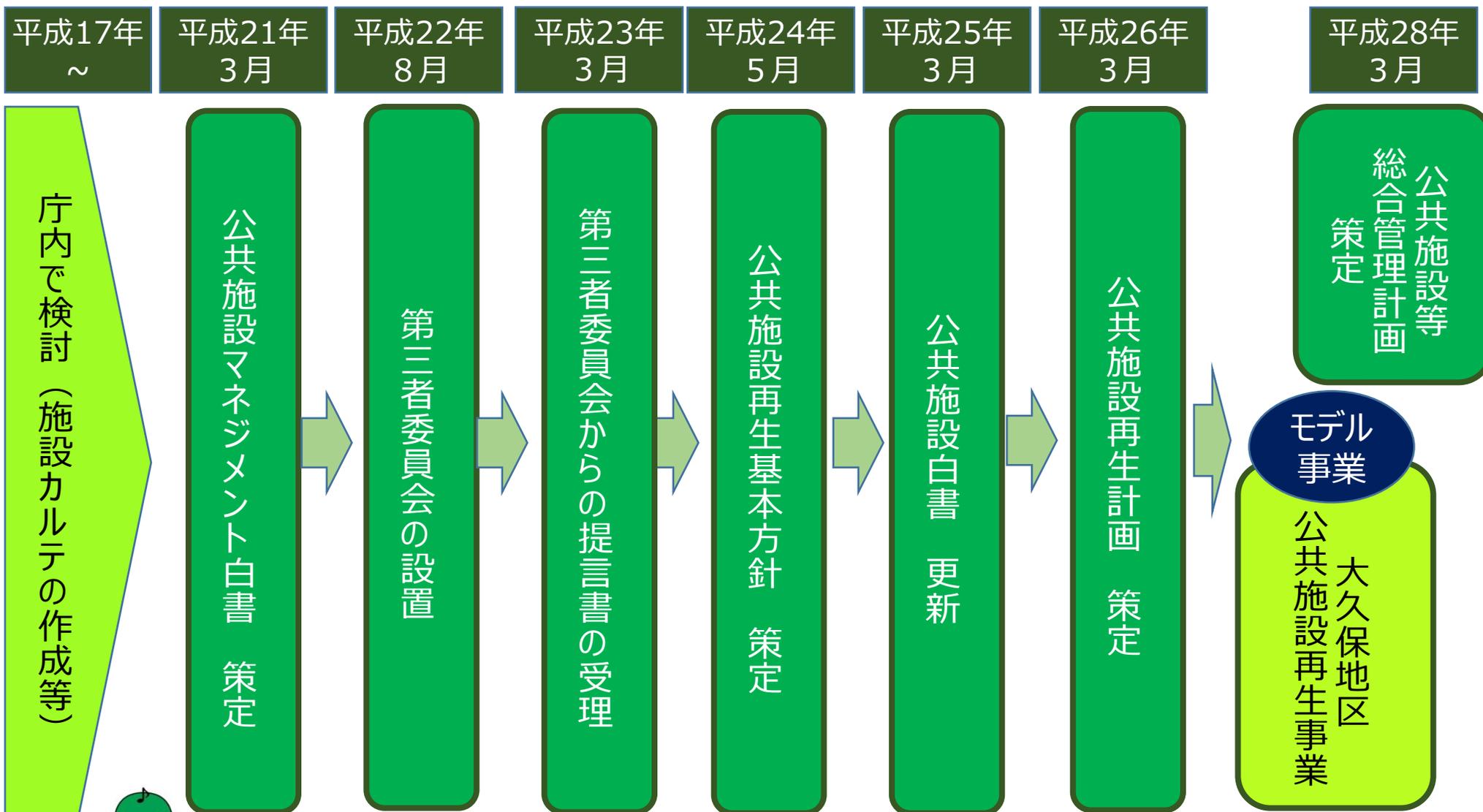
満足化原則

既得権益の見直しには踏み込まず

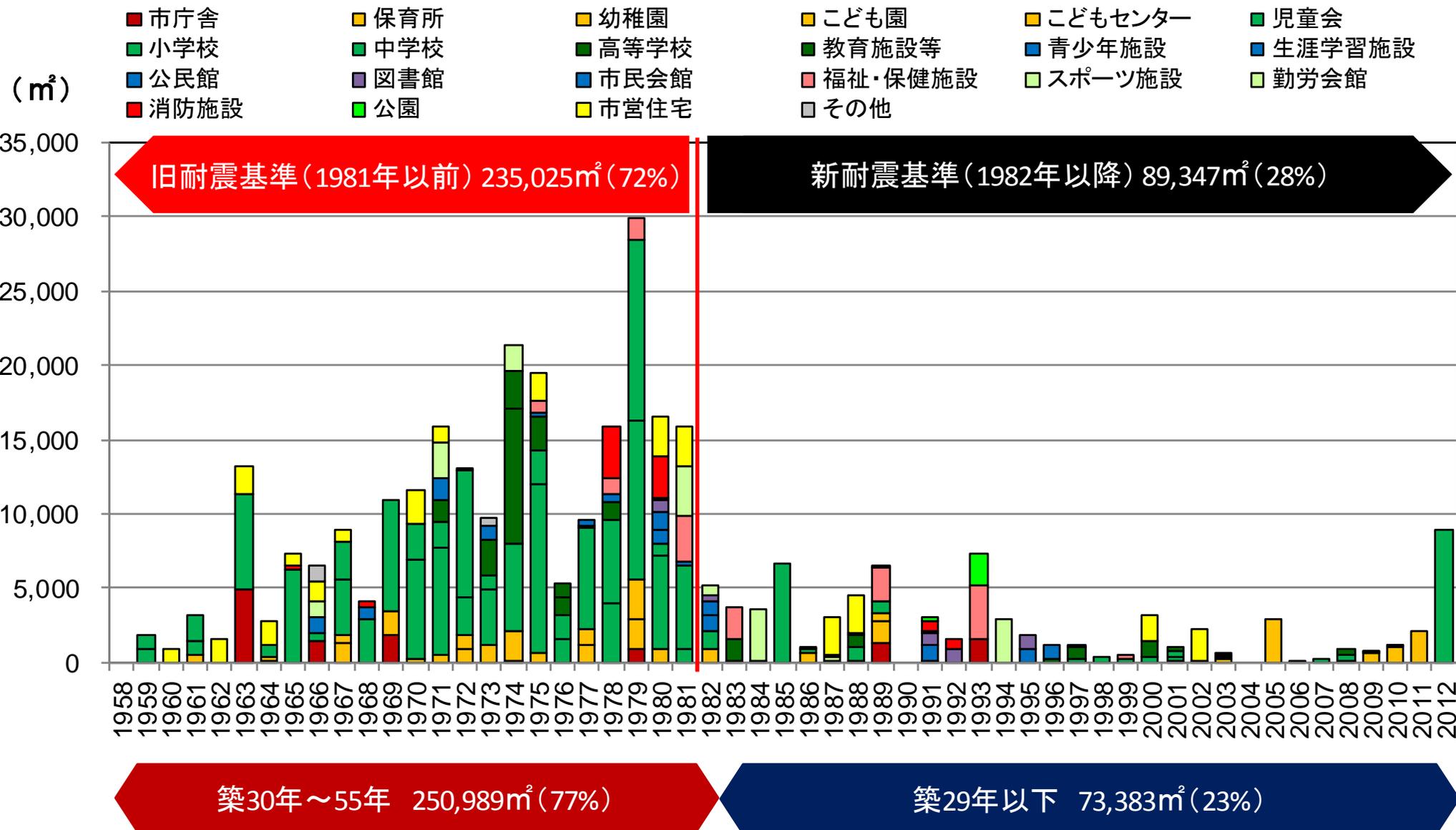
最適化原則

既得権益の見直しにも踏み込む

10. 公共施設の老朽化に対する習志野市の取組経過



11. 習志野市の公共施設の現状



12. 習志野市の公共施設の更新試算（その1）

試算の条件

(億円)

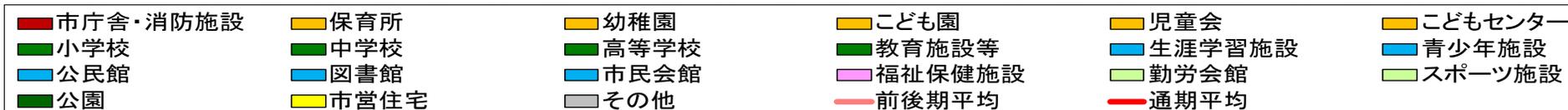
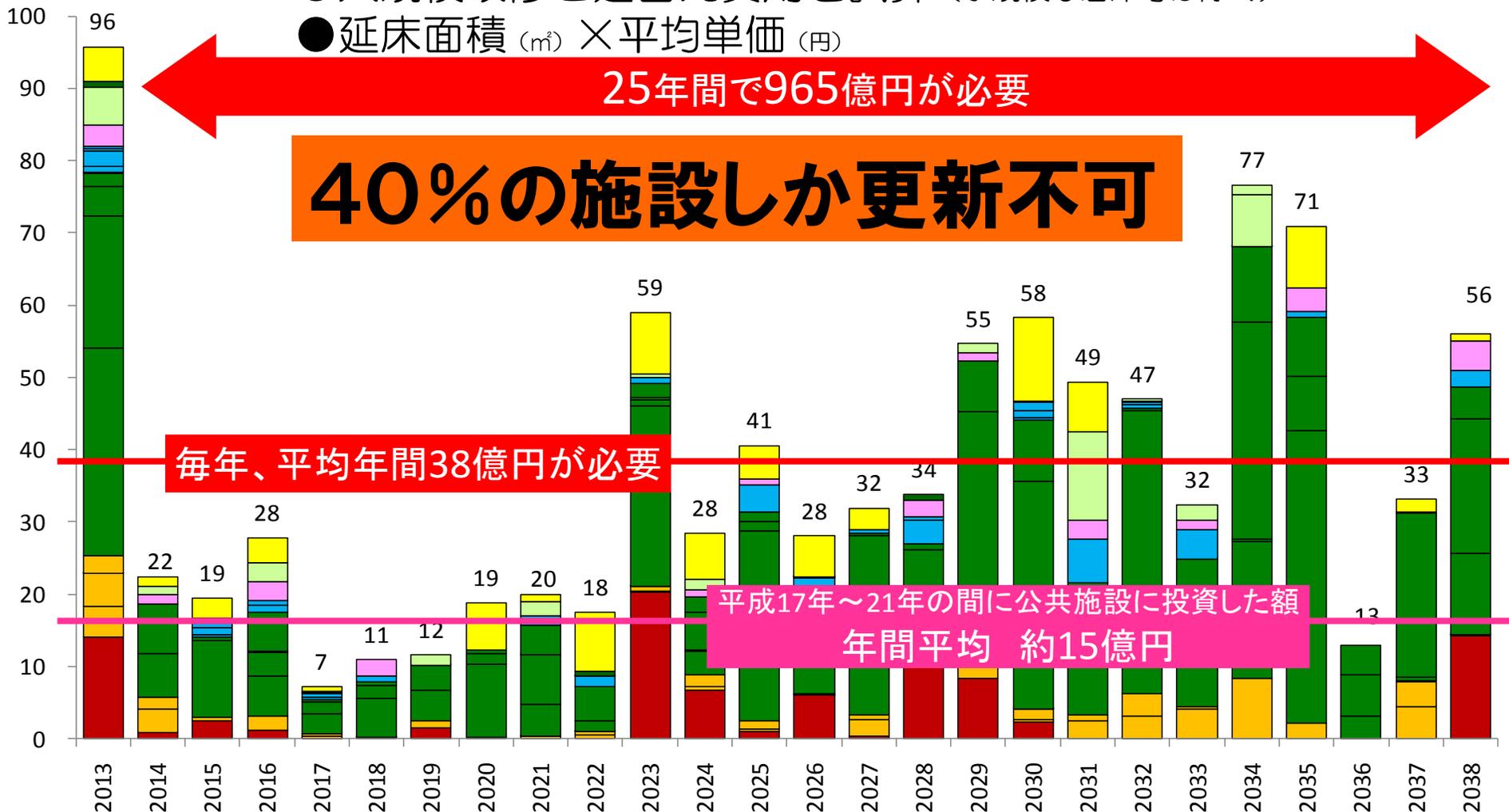
- 築60年（鉄筋コンクリート造）で建替えると仮定
- 大規模改修と建替え費用を試算（小規模な倉庫等は除く）
- 延床面積 (㎡) × 平均単価 (円)

25年間で965億円が必要

40%の施設しか更新不可

毎年、平均年間38億円が必要

平成17年～21年の間に公共施設に投資した額
年間平均 約15億円



13. 習志野市の公共施設の更新試算（その2）

40%しか更新できない状況とは...

市庁舎・消防施設 21,112㎡ 6.5%

消防施設 8,940 市庁舎 12,172

その他 1,568

保育所 11,676

子育て支援施設 29,987㎡ 9.2%

スポーツ施設 15,964㎡ 4.9%

公園 2,579

市営住宅
28,733
8.9%

幼稚園 11,664

勤労会館 2,344

こども園 5,059

スポーツ施設 13,620

児童会 888

福祉・保健施設 15,024

市民会館 875

公民館 6,916

生涯学習施設 2,854

図書館 3,788

青少年施設 2,377

生涯学習施設 16,810㎡ 5.2%

教育施設等 8,737

高等学校 17,809

中学校 60,680

小学校 105,369

教育施設 192,595㎡ 59.4%

延床面積
324,372㎡

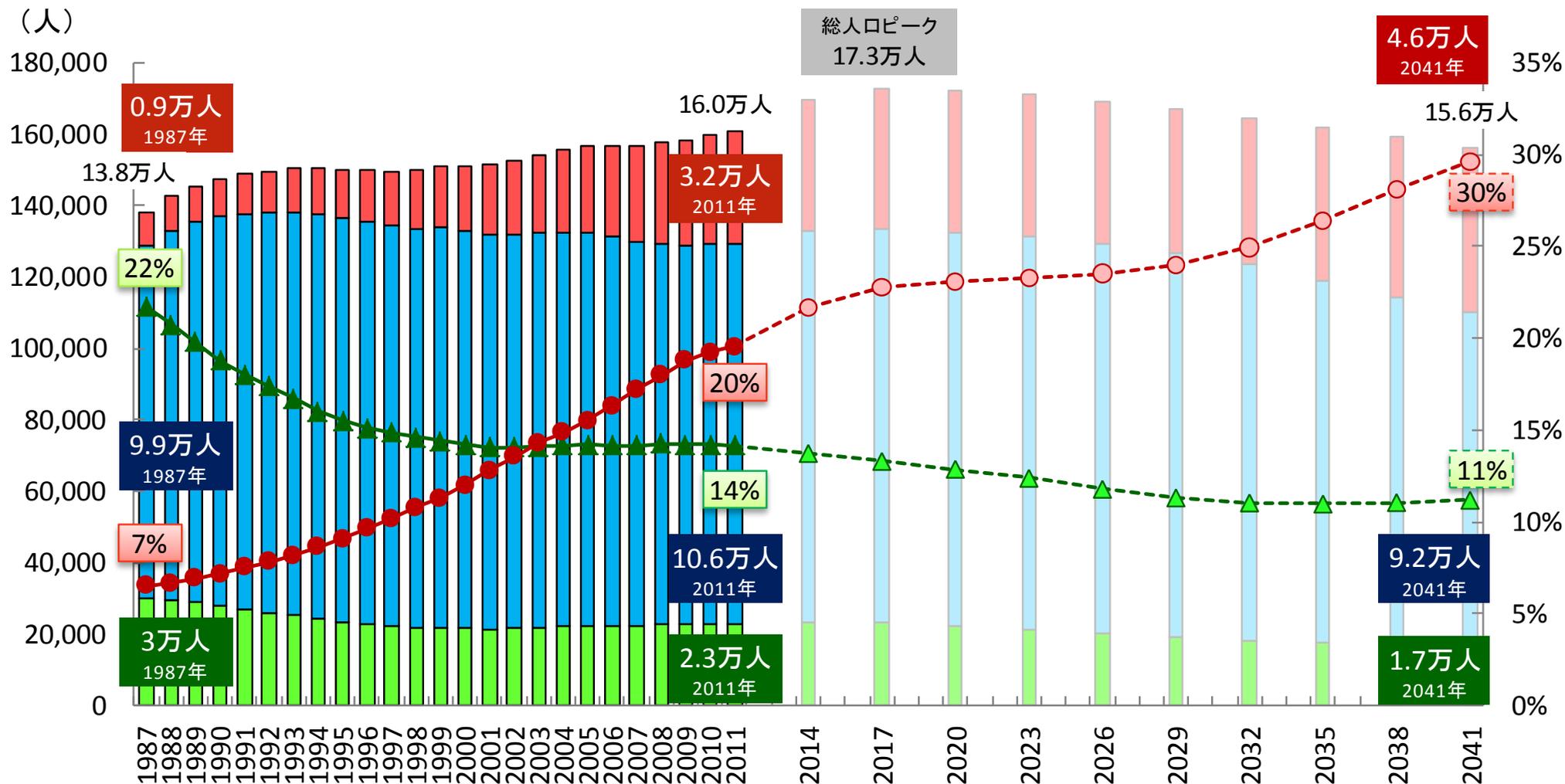
教育施設の総面積が
59.4%

>

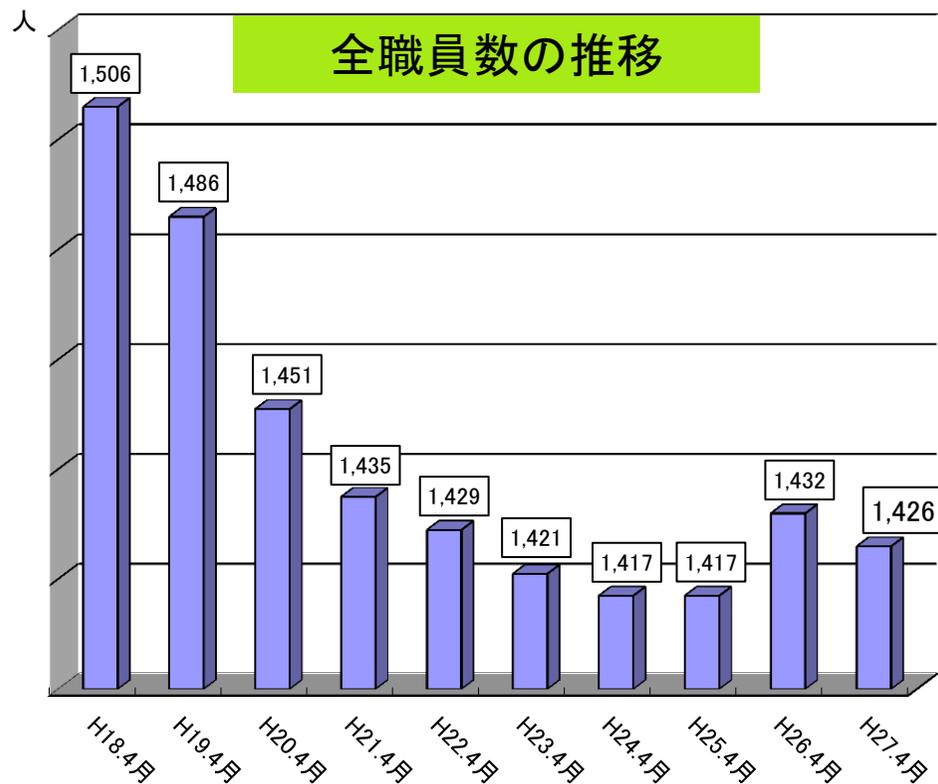
40%
の施設しか更新不可

14. 習志野市の人口推計

■ 0~14歳
 ■ 15~64歳
 ■ 65歳以上
 ▲ 年少人口比率
 ● 高齢人口比率

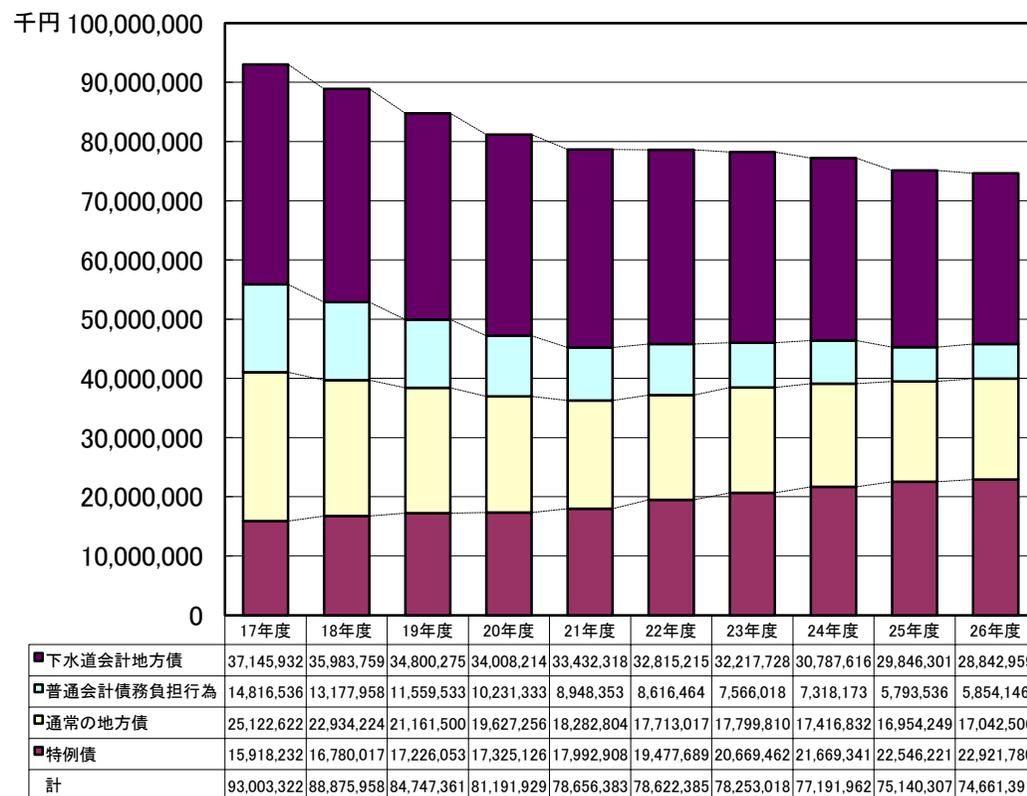


15. 行政改革の取組（職員数の推移、債務残高の推移）



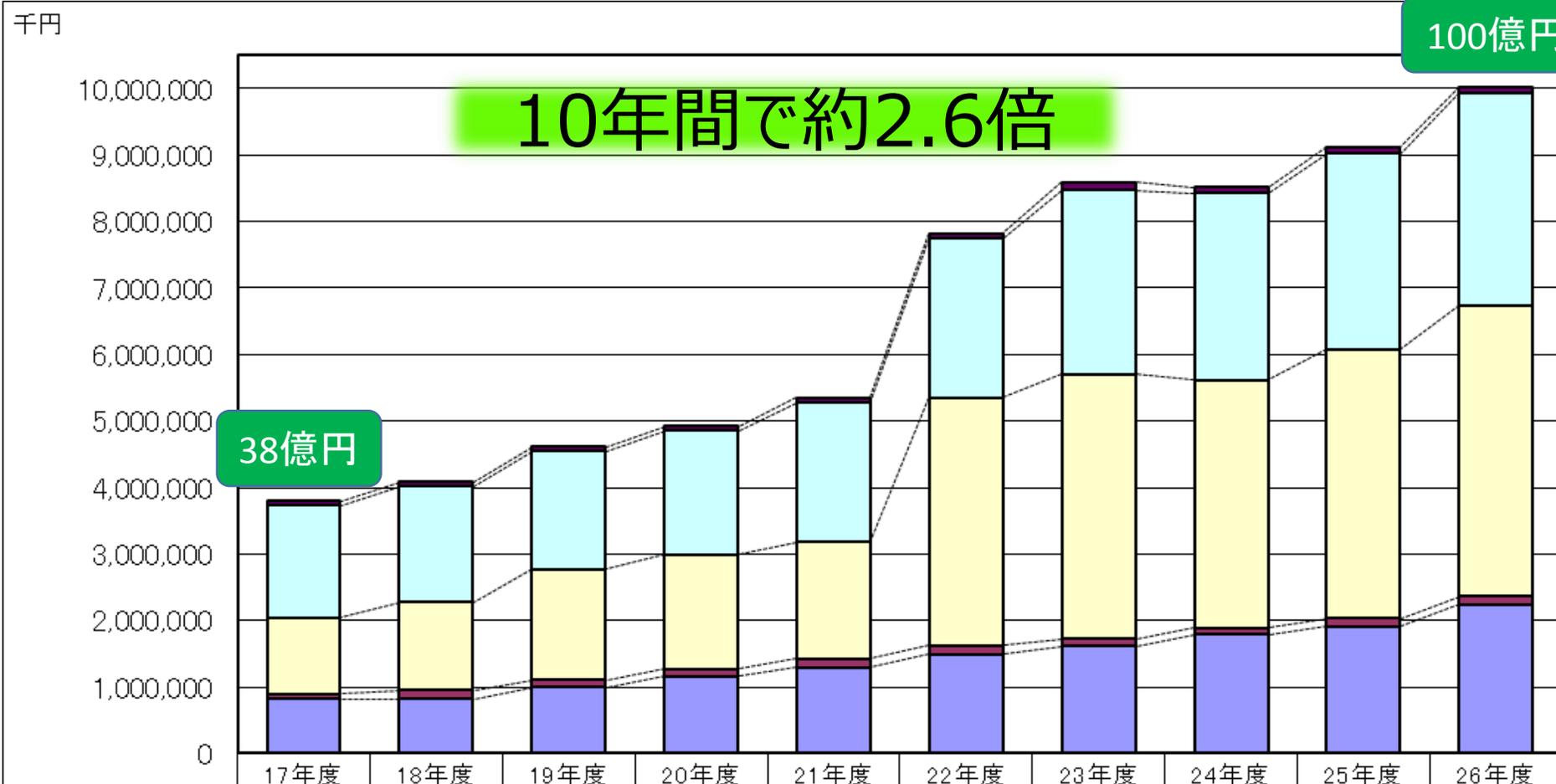
ピーク：平成8年4月 1,807人→△約21%

債務残高の推移



ピーク：平成9年度 1,063億円→△約30%

16. 習志野市の扶助費（社会保障費）の推移



	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
■その他	66,153	65,355	67,966	65,188	76,043	76,706	117,214	88,389	94,675	81,857
□生活保護費	1,684,227	1,740,177	1,778,492	1,855,874	2,094,249	2,398,195	2,770,833	2,810,274	2,940,307	3,200,142
□児童福祉費	1,143,531	1,329,794	1,659,691	1,723,264	1,747,350	3,727,068	3,983,942	3,720,571	4,053,374	4,370,064
■老人福祉費	81,284	124,026	112,071	114,219	132,047	126,987	110,916	105,324	113,086	129,488
■社会福祉費	820,517	824,321	997,756	1,159,063	1,299,706	1,495,095	1,609,062	1,787,651	1,917,197	2,239,421
計	3,795,712	4,083,673	4,615,976	4,917,608	5,349,395	7,824,051	8,591,967	8,512,209	9,118,639	10,020,972

- 方針 1 . 保有総量の圧縮
- 方針 2 . 施設重視から機能優先への転換と
多機能化・複合化の推進
- 方針 3 . 総量圧縮に向けた優先順位の整理
- 方針 4 . 計画的な維持保全による長寿命化
- 方針 5 . 環境負荷の低減への対応
- 方針 6 . 財源確保への取り組み
- 方針 7 . 公共施設の災害対策本部機能及び
避難所機能の強化

公共施設再生計画の目的

1. 時代の変化に対応した公共サービスを継続的に提供すること
2. 人口減少社会の中で持続可能な都市経営を実現すること
3. 将来世代に負担を先送りしないこと



**子や孫、ひ孫の世代に至るまで
負担を先送りせず
より良い資産を次世代に
引き継ぐためです。**

計画期間

平成26(2014)年
から
平成31(2019)年

平成32(2020)年
から
平成37(2025)年

平成38(2026)年
から
平成50(2038)年

基本計画（市の総合的な計画）

前期基本計画

後期基本計画

公共施設再生計画

第1期

第2期

第3期

確実に実施

見直しの可能性あり

検討の時期を明確化



天気予報も、計画も、将来に対する「備え」。
公共施設再生計画は、リスク対応型の計画
マネジメントを実現する計画。

対策「3本柱」

総量圧縮
長寿命化
財源確保

市内に一つまたは数施設あり、全市民が利用する機能あるいは全市民のために存在する施設。

全市利用施設は、都市マスタープランの5つの地域区分ごとに、これまでのまちづくりの特色に沿って配置していく。

全市利用施設

谷津・JR津田沼 駅勢圏



京成津田沼 駅勢圏



実籾駅勢圏



新習志野駅勢圏



京成大久保駅勢圏



22. 習志野市公共施設再生計画の内容（地域利用施設）

コミュニティごとに配置され、施設が所在する地域の市民が、主に利用する施設。

小学校を地域の拠点施設とし、施設更新時に、複合化可能な地域利用施設は複合化していく。

地域利用施設



23. 習志野市公共施設再生計画の内容（個別の施設の例）

年度	前期基本計画期間						後期基本計画期間						公共施設再生計画【第3期】												
	公共施設再生計画【第1期】						公共施設再生計画【第2期】																		
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49	H50
津田沼小																									
大久保小																									
谷津小																									
鷺沼小																									
真根小																									
大久保東小																									
袖ヶ浦西小																									
袖ヶ浦東小																									
東習志野小																									
屋敷小																									
藤崎小																									
真花小																									
向山小																									
秋津小																									
香澄小																									
谷津南小																									
第一中																									
第二中																									
第三中																									
第四中																									
第五中																									
第六中																									
第七中																									

マイナスではなくプラスに



老朽化

少子高齢化

活動ができなくなる

不便になる

機能はできる限り維持

民間活力・市民協働

時代に合った市民サービスの向上

効果的な財政支出

将来のまちづくり
そのものへと展開